



The letter of
Shinseisakuza

kunlapopolo・・・人々の中で人々と共に・・・



新制作座だより

vol.16

2018 SUMMER

<http://www.shinseisakuza.com>

「ニュース」

星槎国際高等学校専攻科 演劇専攻コーススタート！

この4月より、私たち新制作座が共に歩んでいる星槎国際高等学校八王子学習センターに演劇専攻のコースがスタートしました。

専攻科は、高等学校の卒業生もしくはそれと同等以上の学力を有する者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として学校に設けられる課程のことです。

この専攻科の演劇専攻コースを新制作座が指導することになり、4人の生徒を迎えました。

指宿理乃さん（星槎国際高等学校八王子学習セン

ター卒業）、植村アンジェラ美貴さん（都立国際高等学校卒業）、笹竹ひかりさん（星槎国際高等学校浜松学習センター卒業）、田中大君（星槎国際高等学校名古屋学習センター卒業）の4人です。

基礎的な修練のため、音楽（主に発声と合唱）、朗読、日本舞踊基礎、座学として演劇史を学んでいる他、劇団の公演活動と稽古に参加して実践的な演劇創造の場面を体験しています。

指宿さんは「泥かぶら」で梅吉の役を貰い、植村さんは舞台の大道具転換他、裏の仕事、田中君は体育館の公演の時、必ず必要な天井に上りロープを降し幕や照明をつる舞台設営全般の仕事です。始めています。笹竹さんは公演の現場への参加はまだですが、公演に向かうトラックの積み込み作業に参加したり、徐々に専攻科生の生活に慣れつつあります。

彼らが参加した現場は若い力が加わり先輩の劇団員一同指導に心を砕きつつも楽しみで有意義な日々を送っています。彼らの成長を見守り、共に歩む新制作座はどこに向かうのか？ご期待ください。

（記・眞山蘭里）

演劇専攻のメンバー
奥から、田中大君、笹竹ひかりさん、植村アンジェラ美貴さん、指宿理乃さん



新緑の中で開かれた 眞山美保先生十三回 忌法要

桜

も散り、若葉が目にも染みる陽春の4月8日。故眞山美保先生の十三回忌法要が眞山家の菩提寺、小石川日輪寺で営まれた。新制作座の劇団員に、青果先生と美保先生の二代に涉ってゆかりの深い松竹株式会社から安孫子正副社長、星槎グループを代表して桑原寿紀副本部長が列席されて、懇ろに供養を奉じ、墓



日輪寺の眞山家の墓前にて

前に手を合わせました。

「仏教に於ける回忌法要は、祝いごとなのです」と、日輪寺御住職の法話を承って、このあと、うなぎ家「橋もと」で催された直会ではみんな「弥栄！」と声をあげて祝杯を交わしました。それからは先生との思い出話に花が咲き、懐かしくも楽しいときが流れました。笑いあり涙あり、先生と共に過ごさせて頂いたあの日この日は、常に目眩くような青春のさなかであつたような気がします。

眞山美保先生は永遠に私達の中に、人々の中に、生き続けて行かれる・・・そんな感慨を新たにしたら十三回忌法要の一日でした。

(記・込山虔二郎)

「泥かぶら」

新入生歓迎会と春の 公開舞台稽古

― 星槎高尾キャンパス ―

4

月20日、星槎国際八王子と星槎国際立川の新入生歓迎会。最初の劇団員の出番は、生徒120名が6班に分かれて廻る、高尾キャンパスツアーの案内。花々と緑あふれる学校内(元

劇団内)を紹介するのは心楽しいもの。

午後からはドラマティックリーディング「八郎」と「泥かぶら」を上演。最後は歓迎の歌4曲。「春の唄」の星槎バージョン、「見上げてごらん夜の星を」「青春」「クンラポポロ(人々の中で人々と共に)」。今年度より伴奏者として参加している東京音大生の渡邊灯人さんと、ベテランの原さんによるピアノとアコーディオンで、全員が心からの歓迎を生徒たち

に伝えた。その中で、今年度から始まった演劇専攻科の新入生の目は一際輝いていた。

翌21日は「泥かぶら」の公開舞台稽古。期日が迫ってからの案内だったが、なんと客席はほぼ満員。十数年ぶりに来団された、中国の老朋友、周耘教授(武漢音楽学院学部長)が、カーテンコールコンサートとして、夫人の黄伊娜さんと息子の周紫東さんと共に歌とピアノの演奏を聴かせてくださいました。お客様は、泣いたり笑ったり、酔いしれたり、多彩な感動を味わわれたようでした。近所にお住まいの方がお帰りの際、「新制作座が、本当に人々の幸せのため

に活動し続けていられることがよくわかりました。」と熱く語られたことが心に響きました。この日のために稽古をし、呼びかけたことは、人々のためだけでなく、自らのために必要であつたことを改めて思いました。

(記・江崎はんな)



周さんご一家と



春の公開舞台稽古

「泥かぶら」

新潟県五泉市公演

— 観客の声 —

五泉新制作座友の会会員
桐生忠教さんより

「一般公演は汗の数だけ
身にしみる」

5月8日、泥かぶら五泉公演は
25年ぶりの一般夜公演を含むもの
となった。

市長の熱い想いでスタートし
た^{にわか}俄実行委員会、持ち時間は1ヶ月。45年前に新制作座公演をして
から5度目になる主催経験者として
は「大丈夫いける」と元主催者
グループで青少年健全育成市民
会議と文化協会をバックアップ
する形となった。

素晴らしい客席を感じて一枚のチ
ケットを大切に届けてくれた実行
委員の労の賜物と「これが演劇」。
一般公演ならではの生活感が舞台
を上ったり下りたりする、涙と
なって笑いとなって。当然のこと
に舞台が映えてくる。とても新鮮
な一幕が展開されていた、若い俳
優達ゆえの緊張感「生きている」。



五泉市の空



五泉市「さくらんどう会館」
受付の様子

観客をとりこにしていたことは本
人達が一番感じていただろう。
この熱演の向こうに見えてく
る人達、見守っている人達を私は
知っている。
今回の公演を通して1ヶ月、こ
の「見守る」ということの重要さを
学んだことになる。只々「見守る」
とゆうシンプルな強さを社会は必
要としているのではないかと。
新制作座の皆さん、美しき五
月をありがとうございました。

劇団員の紹介 No.04

込山 虔二郎

kenjiro komiyama

このコーナーは、劇団員の活動秘話など
をとりあげ、一人ずつご紹介します。



【プロフィール】

日本の新劇運動の草分けである演出家 土方与志氏に師事し、
舞台芸術学院で学んだ後、1957年に20歳で入団。長年劇
団の舞台監督を務め、新制作座フェスティバルなどで活躍し
たスウィートな歌声は今も健在。

【Q & A】

◎ 込山さんにとって新制作座とは？

① 骨を埋めるところ！

◎ 入団当時の夢や志は？

① 芝居一本で食べていけること、それが夢でした。
その当時は芝居だけで食べていける劇団は少なかった。当
時は井荻に稽古場があった頃で、入団試験では60名もの応募
で稽古場が溢れかえる中、2階からトントンと降りて来て
「いつまでやってるんでしょうね、かわいそうに」と言って、お
茶を入れていただいたのが眞山美保先生との最初の出会い
でした。入団競争率は高かったが、残れる確信はありました。

◎ 携わった作品の役柄や役割、印象に残るエピソードは？

① 最初の配役は、「青春」の主人公の兄「シルビーネ」役。
「馬五郎一座顛末記」では、喧嘩っ早い組員「八ちゃん」役。
「野盗、風の中を走る」で初めて舞台監督をし、「新制作座
フェスティバル」では、歌って踊って舞台監督も兼任して活
躍しました。（劇団の先輩談：フェスティバルの舞台では光
り輝いた存在だったよ。女の子のファンが多くて、当時は
「きゃー」って声がすごかった）

◎ 劇団の活動以外に熱中しているものはありますか？

① 劇団の活動以外は何もないなあ。強いて言えば野球を
見に行くくらいかな。

◎ 今後の夢や目標は？

① 若い世代にバトンタッチして、新制作座がこのまま続けば
いいと思う。星槎国際高等学校で演劇専攻科の演劇史
の講師を受け持っているが、演劇の歴史と言っても、今でこそ
歌舞伎役者は人間国宝なんて言われてるけど、昔は人間以下
の扱いだった。そういう乞食と同じような状態に置かれた役
者が、自分たちの力で人間国宝と言われるまでになるまでの
その苦労を知ってもらいたい。演劇がいかに人を支えてきた
か、いかに苦労して必要とされるようになってきたか。演劇が
民衆の支持を集めて自由に表現できるようになった現在に
至るまで、さまざまな歴史を重ねてきた過程を教えたい。そ
の生徒の中から演劇を志す人が出てきたらいいと思う。

「泥かぶら」

子ども達の命を守る には

— 5月10・11日 愛知県刈谷市
公演のごあいさつより —

小 学2年生の女兒が線路上に
遺棄された新潟の事件の容
疑者逮捕のニュースが飛び込ん
できた朝、「泥かぶら」刈谷公演の初
日の幕が開きました。開演前の

刈谷市教育委員会のご挨拶では、
子ども達自身が命を守るために
も、互いに声を掛け合い助け合っ
ていきましょうと、情愛のこもっ
た注意喚起をされました。悪意
をもった大人が子どもを傷つけ
る事件が後を絶たない中、先生方
のご苦勞を感じる開幕となりました。

公演中、前回の公演を担当され
た懐かしい先生方が楽屋を訪ね
て来られ、当時の失敗談や思い出
話で盛り上がりました。別れの
合言葉も、泥かぶらとこずえの
「じゃあ、明日〜」でした。3年に
1度、市内全中学生を対象に公演
する「泥かぶら」は、今回で10回目
を数え、4万人を超える刈谷市民
が観た計算になるとご挨拶にあ



刈谷公演を終えて



楽屋を訪ねてくれた、前回の刈谷公演の担当の先生

りました。

公演を終え一路八王子をめざ
し出発、信号で停車していると、
セーラー服の可愛い少女たちが

「泥かぶら・新制作座」とステッ
カーが貼られた劇団のワゴン車
を見つけ、わあ〜と声を上げ、は
にかみながら力いっぱい手を振っ
てくれました。行儀悪く乗ってい
られないな〜と手を振り返す若
い俳優たち、外はまだ明るい5月
の澄んだ空が広がっていました。

(記・小津和知穂)

「泥かぶら」

少女たちの眼差に応 える舞台を目指して

— 5月19日 東京都世田谷区
田園調布雙葉学園公演 —

田 園調布雙葉学園は、幼稚園、
高校までの由緒正しい一貫

教育女子校で、3回目の公演です。

「宗教の時間」を使つての公演。

会場となる講堂に入ると、静謐な
空気の中に、美しいステンドグ
ラスが迎えてくれます。舞台自体は
コンパクトですが、客席が競り上
がっているの、演者からは生徒
さん一人一人の顔がよく見えま
す。姿勢を正してじっと見入る生
徒さんの姿が印象的でしたが、事
前教育があったにせよ、何を伝え
ようとしているのかを汲み取る

うとする真つ直ぐな瞳が心に迫
りました。

滝口校長先生がお会いする度
に、『泥かぶら』は私共の教育理
念とぴったりに合っているんです。
ぜひ子どもたちに見せたい。」と
お言葉をくださいます。

「こういう人間を育てる」とい
う確かな教育理念を持つている
からこそ、明確な意思で選んでく
ださっているのだと、教育につけ
る熱意を感じました。同時に、舞
台で作品を届ける我々にはその
責任があるのだと、作品や役に向
き合う姿勢を改めて考えさせら
れる機会ともなりました。

(記・上杉綾)



滝口校長先生と



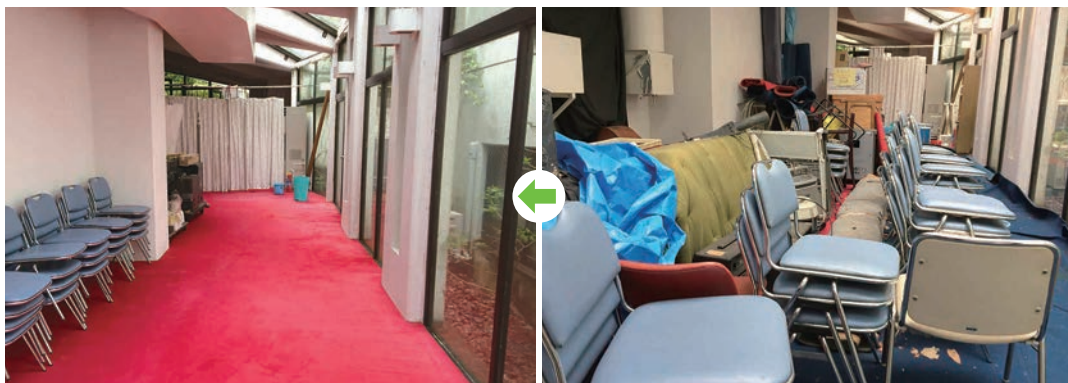
くらの日とは、毎週火曜日に劇団員全員で清掃や片付けをする日です。

「くらの日、発動！」

高尾キャンパスに生活する劇団員や寮生たちみんなが、日々の暮らしをすっきり綺麗に過ごせたら気持ちいいよね。との声がけから、今年3月に発足したくらの日。そう名付けたのは、むかし劇団の建物に「オクラ」という場所があったから。

最初のくらの日は、2号館エントランスホール。このホールは陶芸家 河合紀(かわい ただし)さんの陶板レリーフが壁面を飾る広々としたスペースで、総勢13名で片付けて綺麗に磨きました。素敵なカフェテラスに生まれ変わり、4月の公開舞台稽古では、お客様を招くことができました。

次は、4月下旬に劇場下手側通路の清掃をしました。劇場は演劇にとって重要な場所。2日間かけて5〜7名で必死で行なった結果、見違えるくらい綺麗になりました。



感動のビフォー・アフター

改めて思うことは、清掃とは見た目を綺麗にするのではなく自身自身の心を磨いているのだと。

(記・亀川 忠助)

「泥かぶら」

体育館の光景

5月29・30日
茨城県守谷市公演

今日は全国的に暑い日が続きました。2日に渡り、守谷市教育委員会主催で市内の中学生2千人が観劇しました。



体育館いっぱいの生徒たち



バランを終えた、力持ちの女子たち

体育館満杯の中、演じる側も観る方も熱気に包まれたものすごい舞台でした。暑い中、生徒さんは本当によく観てくれました。

今回私は木村さんと公演の担当者になって準備から携わって主催者の方々とお会いして、打ち合わせをしたりしていつもと違った公演となりました。

そして久しぶりの体育館公演。これは名物といっていいくらい新制作座の歴史の一つです。体育館が劇場に変わる光景は本当に別空間であり何度見ても感動します。

ただ年季と経験イコール応用と判断力が必要なので、まだまだ先輩方がいないと出来ません。私を含め若い人たちが伝承していかなければ技術が消えてしまうと考えさせられた公演でした。

(記・亀川 忠助)

「泥かぶら」

素直な心

6月6日 福生市
東海大学菅生高校公演

梅

雨が始まる6月、福生市民会館のロビーに虹の架かる



東海大学菅生高校 客席の様子

ような声が響き渡りました。公演前日に行う童のお稽古です。私は劇団に入って7年になりますが、こんなに素直に反応してくれる生徒さんに初めて会いました。劇団員が指示すると「はい！」と元氣よく返事をしてくれ、真似をしてくださいと言うと、ちゃんとよく見てすぐに真似をしてくれました。礼儀正しい童役の生徒さんを見て明日の公演がものすごく楽しみです。ありがとうございます。

公演当日、客席の生徒さんが観たまま心が動き反応してくれているなど演じながら感じました。東海大菅生高校の生徒さんは「素直な心」の持ち主が多い素敵な学校だと思いました。大人になる

と素直な心を忘れてしまいがちになるので私も生徒さんたちを見習い謙虚に美しい心の持ち主と成れるよう、日々精進しようと思わせていただいた公演でした。

(記・福島里佳)

「国際交流」

国際婦人デーに集う

— 中国大使館
記念レセプション —

3

月8日、毎年恒例の「国際婦人デー」に、今年は歌の

出演という正規のお仕事としての出演依頼を受けました。

そう言えば1月の終わり、中国大使館の文化部の皆さんと餃子パーティーをやった時、中国の懐かしい歌をたくさん一緒に歌い、盛り上がったことが端を発したのではと思いました。この記念レセプションは中国と日本の多くの文化人や政治経済界の皆様方が集まりますので、私たちも稽古を重ね、中国語の発音も中国の留学生の張さんに習い、この日のために備えました。

当日、会場は溢れんばかりのお客様で賑わい、私たちは中国と日



中国大使館「国際婦人デー」記念レセプション

本の歌7曲を歌いました。今回は張さんも「大中国」の中国語のソロを歌うことになり、力いっぱい歌うことが出来ました。中国の方々もふるさとを懐しく思われ方に違いありません。

そして、中国大使夫人のご挨拶は世界情勢を踏まえ、慎ましいけれど力強く、女性の役割の大切さを美しい日本語で話され、改めて中国の大きさと歴史の深さを感じました。

私たちの歌の後、大使閣下が舞台上がられて写真を一緒に撮ってください大感激でした。

(記・木村幸子)

「日々基礎稽古その1」

ゆかたざらいに向けて

7

月の上旬、新制作座の大広間でゆかたざらいをを行います。

それに向けて毎週土曜日、蘭里さんから日本舞踊を教えてください。稽古に励んでいます。4月より新しく演劇専攻に入った2人も稽古に加わり、一層にぎやかになってきました。

まず、最初に習うのは礼から。日舞は礼に始まり礼に終わります。さらにゆかたの着付け方、歩き方や扇子の扱い方、基本動作を学んでいきます。そこから振りをつけていただき、様々な曲を覚え、踊ります。

そんなある日、日舞を学ぶことで舞台の所作が美しくなると知り、私の意識は大きく変わりました。ただ振りを覚え踊るのではなく、良い役者になるための大切な修行なのです。

ゆかたざらいが、どんな発表の場になるか私も楽しみです。また次号の新制作座だよりやSNSでその様子を掲載していきますので、見ていただけると嬉しいです。

これからも、基礎稽古の日舞も

歌も一生懸命勉強致します。

(記・指宿理乃)



日本舞踊の稽古風景

「紀行」

イタリアへの里帰り

この度、私の生まれ故郷であるイタリアに、いとこの結婚式ということで2週間の里帰

りをしてきました。実に5年ぶりの帰国でした。美味しい食べ物やイタリアの歴史ある建物、紹介したくても紹介しきれないので、結婚式のお話をしたいと思います。

おめでたい日の記念にとの両親の意見で、私と母は着物を着ることを決めましたが、出発まで時間がありません。「新制作座衣装部 朱鷺（しるし）」でレッスンを重ね、自宅でも復習をして出発。イタリア留学で歌を学んだ母は、披露宴で初めて着物姿で唄いました。着崩れる事なく無事に披露宴も終え、互いに一時間かけて着た着物



母と着付けレッスンにて



フィレンツェの街

をものの5分で脱ぐという開放感がありました。
今回の里帰りでは、フィレンツェの街を1日着物で歩いたり、いとこに着付けてみたり、やっぱ

り日本の着物文化は素晴らしいと感じる事が多かったです。また里帰りで着物を着たいと母と話す日々です。

(記・植村 アンジェラ美貴)

けて家の中で育てた。我が家に家族が一人加わった。3年前劇団へ引越したとき臆病者の彼女は控室に放された途端、忍者の如く姿を消した。劇団の皆で捜したが生きものの気配すら無い。行方に謎を秘めたまま10日程経った或る朝、「オーイ、このドアを開けてくれ!」と夫の大声が響いた。ドアを開くと、なんと毛布にくるまったキョンの姿が。「ウワァ、どこに居たの」「僕はあれから毎日控室を探した。何も変化なし。でも今朝微かに尿の臭いがした。気配は消しても臭いは残る。布団カバーの陰に飲まず喰わずで潜んで居たんだ」痩せて子猫の様になっていたキヨン。でも生きていて良かった……。

今では我が家の王女様。我儘で頑固な臆病猫だけど、闘病中の苦しい日々、彼女のおかげで私は随分癒された。「仲良く長生きしようね」……我が家の合言葉である。



今では我が家の王女様、キヨンと一緒に

なごみの の コラム

「忍者ねこ “きょんちゃん”」

(記・福島 まゆみ)

「忍者ネコ」と皆は呼ぶが実は大変な「臆病猫」である。彼女は14年前の春、ノラの仔猫として団地のベランダで生まれた。「ギャー!」という甲高い悲鳴を3度あげた。てんかん^{てんかん}の発作だった。3ヶ月生きられるかどうかと医者が云う程の虚弱児だったので「虚(キヨン)」と名付

熊本地震の被災地にみなさまからの応援を!!



ドラマティックリーディング
『泥かぶら & 八郎』の舞台より



発生から2年余を経た熊本へ、ようやく新制作座のドラマティックリーディング『泥かぶら & 八郎』をもってチャリティー公演を行うこととなりました。

『泥かぶら』終演後のロビーで、募金箱を持つ俳優たちの呼びかけに応じてくださったお客様の「熊本で頑張ってきてください」という心を届ける大切な公演です。熊本出身の私は故郷で、子ども達のために懸命に尽くしていらっしゃる方々に出会い、大きな感動を受けました。そして皆さまの熱い想いで、予想をはるかに超える上演のお申し込みをいただきました。被災地への公演実現のため、引き続きご理解と**ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。**

チャリティー公演開催予定校:

2018年11月7日(水) 南阿蘇村立中松小学校

8日(木) 熊本市立託麻東小学校・熊本市立龍田小学校

9日(金) 熊本市立河内小学校・熊本市立河内中学校

NEWS

二代目 松本白鷺、十代目 松本幸四郎、
襲名披露

七月大歌舞伎のお知らせ

真山青果 作・真山美保 演出
元禄忠臣蔵

おはま ご てんつなとよきょう
「御浜御殿綱豊卿」

徳川綱豊卿役に片岡仁左衛門丈、富森助右衛門役に市川中車さんが出演されます。

日時: 2018年7月3日(火)～27日(金)

【夜の部】午後4時15分～
(夜の部の1本目です)

会場: 大阪松竹座



劇団新制作座 衣装部 [朱鷺 -toki-]

【振袖お貸し出しのお知らせ】

劇団新制作座では、国内外の公演活動で舞台衣装として活躍した「きもの」を、貸し出ししています。創立者で劇作家・演出家の真山美保が選んだ日本の伝統芸術「きもの」の美しさをぜひ体験していただきたく思います。

【振袖内覧会2018】

「朱鷺の部屋」にて、定期的に内覧会を行なっております。
お気軽にお問い合わせください。(参加費: 無料)

- 日程: 8月 17日(金)・18日(土)・19日(日)
9月 8日(土)・9日(日)・10日(月)
15日(土)・16日(日)・17日(月)
22日(土)・23日(日)・24日(月)

- 時間: [1] 10:00～11:20
[2] 13:00～14:20
[3] 15:00～16:20
[4] 17:00～18:20

- 会場: 劇団 新制作座「朱鷺の部屋」(下記住所)
- お申し込み方法: 上記の日程と[1]～[4]の時間帯からご希望を選び、下記のファックスかe-mailアドレス宛にお申し込みください。

※ブログ「和装文化の朱鷺 -toki-」内の「振袖カタログ」にお貸し出しの振袖写真をアップしています。

「和装文化の朱鷺」で検索してご覧ください。
<http://ameblo.jp/wasoubunnkanotoki/>



劇団新制作座

[新制作座だより] 第16号 2018年7月7日 発行

発行: NPO法人 劇団 新制作座 〒193-0826 東京都八王子市元八王子町2-1419

tel: 042-661-0001 fax: 042-661-6702 e-mail: info@shinseisakuza.com